



一最北端から最先端へー 新エネルギーの活用モデルとなる地球に優しいまちづくり 稚内新エネルギー研究会

受賞の ポイント

セミナー開催、市民参加活動、広報誌発行、調査活動など幅広い取組みを実施しており、特に風力発電好地域という特性を活かし、その電力を水素貯蔵し燃料電池へ供給するなど先端技術を活用し普及啓発に努めている。また、地域の産官学が一体となって積極的にプロジェクトを推進している点が評価された。

● 普及啓発活動の概要 ●

日本最北端のまち稚内は、国内屈指の強風地帯で、最北端の宗谷岬周辺では一年を通じ平均7.5m/sを越える風が吹いている。その特性を活かし、稚内市はじめ民間企業による風力発電事業が推進され、合計74基（総出力76,000kW）の風車も持つ日本一の「風のまち」に成長した。また産官学との誘致活動が実を結び、NEDOが実施する国内初の大規模太陽光発電施設の実証試験も行われている。このような特性を生かし、当研究会では低炭素社会実現のために「稚内で作った風力水素で札幌の水素自動車を走らせるデモンストレーション」や「風のがっこう稚内での風力・太陽光を利用した水素製造」等の先進的な取り組みを通じて、新エネルギーを核とした環境最先端のまちづくりに取り組んでいる。

